

静岡県におけるクレチン症マス・スクリーニング精検者の追跡調査

浜松医科大学小児科 五十嵐良雄
竹広 晃

静岡県における昭和57年1月から12月までのクレチン症マス・スクリーニングの結果と、私達が管理しているマス・スクリーニングで見出されたクレチン症、一過性高 TSH 血症のその後の経過について報告する。昨年一年間で46,164例についてクレチン症のマス・スクリーニング検査を施行し、8例(0.017%)について精検を行った。内、クレチン症として治療を行っている者3名、一過性甲状腺機能低下症と思われる者1名、精査時 TSH, T_4 、ともに正常例2名、現在精査中1名である。昭和55年に見出されたクレチン症は、現在、2歳10カ月、2歳3カ月の2名であるが、その身体発育、精神運動発達(DQ)は世常である。サイロキシンの投与量は、6.5, 4.8 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{日}$ 、であり、血中 T_4 も 8~15 $\mu\text{g}/\text{dl}$ に維持されている。一過性高 TSH 血症の3例中2例は、2歳、2歳4ヶ月時に TSH は、8~9 $\mu\text{U}/\text{ml}$ と正常化した。1例は2歳7ヶ月でも TSH 19 $\mu\text{U}/\text{ml}$ と依然軽度高値を示している。3例とも血中各種甲状腺ホルモン、身体発育、精神運動発達は正常である。

なおスクリーニング開始以後静岡県でのクレチン症の罹患率は、126,265例中6例、約21,000人に1人であり、他の報告より少い印象を受けるが更に長期的な観察が必要であろう。

乳児期の血中 TBG, 遊離サイロキシンについて

浜松医科大学小児科 五十嵐良雄
竹広 晃
浜松医科大学第II内科 真坂美智子

私達は昨年の本研究会で、一過性乳児高 TSH血症では生後6カ月までは、血中 TBG が、正常対照(10例)と比較して高値を示す傾向を認めると報告したが、今年度は、健康乳児の血中 TBG、および遊離サイロキシンの月令による推移について検討した。

対象と方法：母親が HB_s 抗原陽性であるため、経過観察や HBIG 、 HB_s ワクチンの投与を行っている乳児37例について、血中 TBG、遊離サイロキシンを、RIA(リアグノスト TBG[®]、アマレットクスフリー T_4 [®])で測定した。内20例については継時的に(多くは1, 3, 6カ月)測定した。

結果および考案：血中 TBG は生後 1 カ月 $24.3 \pm 5.0 \mu\text{g}/\text{dl}$ ($M \pm SD$)、3 カ月 $28.1 \pm 4.4 \mu\text{g}/\text{dl}$ 、7~12 カ月、 $26.4 \pm 6.4 \mu\text{g}/\text{dl}$ であり、3 カ月時にやや高値を示した (図 1)。個々の症例についても同様な傾向を認めた。母親が甲状腺抗体陽性かつ甲状腺腫を有するため、出生後経過観察を行ない、5 週目に $53.3 \mu\text{g}/\text{dl}$ と高値を示した症例 (図 1 中○印) でも、5 カ月以降は対照と差がない。遊離サイロキシンは、TBG と異なり、月令による差は認められず (図 2) $1.26 \pm 0.24 \text{ng}/\text{dl}$ ($M \pm SD$) であった。

以上より乳児期早期の TBG 高値は一過性乳児高 TSH 血症に特異的なものではなく、健常乳児でも、乳児期早期 (生後 3 カ月前後) に TBG が一過性に高値を示す傾向が明らかになった。遊離サイロキシンについては、乳児期月令による変動を認めなかった。

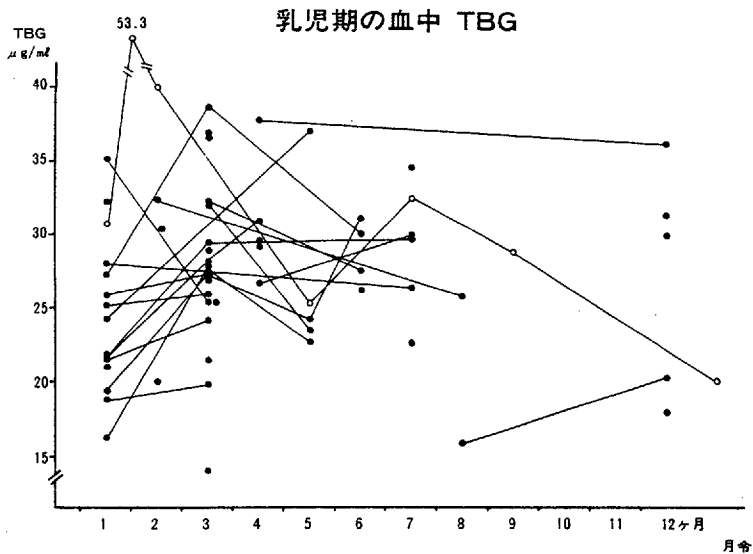


図 1

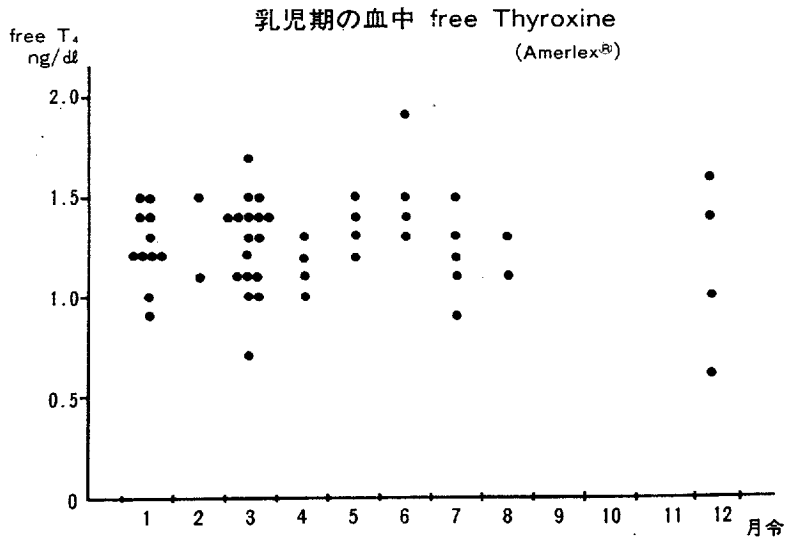


図2

慢性甲状腺機能障害の疫学と予後に関する研究報告書

大阪大学医学部小児科 藪内 百治
 野瀬 幸
 原田 徳蔵
 牧 一郎
 大阪大学医学部中央臨床検査部 宮井 潔
 水田 仁士

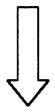
新生児クレチン症のマス・スクリーニングが開始されて以来、クレチン症とは鑑別を要する種々の病態が報告され、それらの診断と治療管理の問題が注目されつつある。中でも乳児一過性高 TSH 血症や新生児一過性甲状腺機能低下症は初期の段階での診断が困難であり、長期間の注意深い経過観察の後に初めて診断が下されなければならない。

最近我々は新生児一過性甲状腺機能低下症の診断に際して新たな注意を必要とする症例を経験した。今回は大阪市におけるスクリーニングを初期診断とその後の追跡結果とに対比させて報告すると共にこれら3症例について述べる。

昭和50年11月から昭和57年12月の期間の大阪市におけるマス・スクリーニングの結果は、スクリーニング総数 212,700、呼出し数 220、初診時何らかの異常のあった症例60であった(図Iの上段)。初



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



私達は昨年の本研究会で、一過性乳児高 TSH 血症では生後 6 ヶ月までは、血中 TBG が、正常対照(10 例)と比較して高値を示す傾向を認めると報告したが、今年度は、健康乳児の血中 TBG、および遊離サイロキシンの月令による推移について検討した。